

機械化一貫体系による加工・業務用たまねぎの推進 ～ ながさき西海農業協同組合（長崎県平戸市）～



1 組織の概要

組織名称	ながさき西海農業協同組合 平戸営農経済センター
組織形態	農業団体
代表者名	代表理事組合長 松田 辰郎
所在地	長崎県平戸市紐差町376-2
連絡先	ながさき西海農業協同組合 平戸営農経済センター 営農指導課 TEL:0950-28-2811 FAX:0950-28-0740
販売額	加工・業務用たまねぎ 1,494万円（平成26年産）
取組者数	加工用たまねぎ生産者：H25年産7名、H26年産12名、H27年産15名（予定）

注：販売額・取組者は平戸市管内分

2 取組の推移

昭和55年度	「平戸」（たまねぎ）を野菜指定産地に指定。青果用として栽培が本格化
平成23年度	0.5haから加工・業務用たまねぎを試験的に栽培
平成24年度	「平戸加工たまねぎ協議会」を設立し国産原材料サプライチェーン構築事業で新品種等現地適応性試験や先進地への現地研修会を実施。作付面積も1.2haに増加
平成25年度	県北加工業務用産地育成協議会設立 平成25年度構造改善加速化支援事業（県単）等で移植機、収穫機、鉄コン等を導入
平成26年度	加工・業務用野菜生産基盤強化事業（国）に取り組む

注：2 取組の推移は平戸市管内分

3 加工・業務用野菜の取組概要

（1）基礎情報

取扱品目	たまねぎ	
作付面積	6ha	
出荷量	291t	
出荷時期	5月下旬～6月	
品種名	ターザン	
主な出荷先 （主な用途）	全農ながさき	
出荷形態等	鉄コン	
取引先からのニーズ	Mサイズ（直径7cm）以上を提供	

移植機

注：作付面積、出荷量は平戸市管内の26年産（26年5月下旬～6月に収穫されたもの）データ

(2) 取り組んだきっかけ

平戸市は、たまねぎの野菜指定産地であるが生産者の高齢化が進展する中、特に重労働である収穫作業や出荷のために根や葉を整える調整作業を少しでも省力化出来ないか模索した。23年度から青果用に比べ、出荷調整作業が少ない加工・業務用たまねぎの試験栽培を開始。24年度に国の補助事業を活用し、新品種等現地適応性試験や栽培先進地である兵庫県(淡路島)・佐賀県等への現地研修を実施するとともに、25年度に県の事業で移植機、収穫機、鉄コン等を導入するなど加工・業務用たまねぎの産地づくりを目指した。

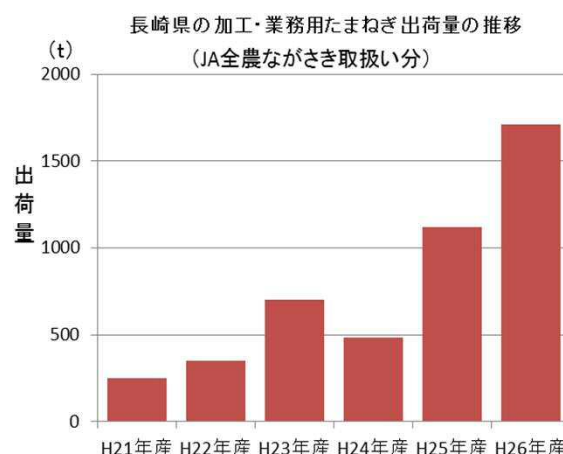
(3) 取組の特徴

加工・業務用産地育成を図るため、JA、市町、市町農業委員会及び県関係機関で構成する協議会を設立。県北地域での取組を推進するとともに、県協議会と連携して全県上げた産地づくりを展開。

- ①長崎県単独事業の「構造改善加速化支援事業」で整備した移植機・収穫機・ピッカーを効率的に運用。
- ②加工・業務用野菜生産基盤強化事業で作柄安定に寄与。
- ③従来のフレコンから実需者が扱いやすい鉄製コンテナを使用。

(4) 関係機関の支援

- ①平戸市から各種事業に対する事務への助言や機械利用組合協議会参加など協力体制を構築。
- ②長崎県県北振興局からの栽培マニュアルに即した指導。
- ③全農ながさき、県加工野菜協議会からの各種情報提供等。



4 販売先の開拓

今後も全農ながさきを通じた販売ルート確保を行う。

5 課題とその対応

- ①加工・業務用たまねぎは初めての取組だったため認知度が低かったが県・市・JAによる説明会を実施するなど生産者への周知活動を行った。
- ②種まきや育苗法などの課題も多かったが検討会を開くなど栽培技術の向上に努めた。
- ③青果用に比べると単価は安いが見込める収入が見込めるため、実需者が扱いやすい鉄コンを利用することで販路の拡大を目指す。

6 取組成果

- ①収穫の機械化や出荷調整作業の省力により青果用に比べ作業時間が149時間から91時間へ短縮(県試算)。
- ②県及び地域も加工・業務用野菜を推進すべく協議会を設立するなど推進体制が強化され平戸市における作付面積・生産者も徐々に増加。



鉄コン

7 今後の展開

- ①共同乾燥施設、共同選果場の整備。
- ②作業受託組織を設立することで規模拡大を図る。
- ③現在反収5t/10a程度であるが、土づくり、マルチ、適宜な薬剤散布などにより6t/10aを目指す。